

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方針	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
中高一貫教育の推進	①交流授業を改善充実することにより、基礎学力の向上を図る。 ②連携中学校との交流を活性化するとともに、地域への情報発信に努める。	評価指標 ①「学校では、生徒の基礎学力の向上に向けた取組が行われている」と思う生徒の割合が80%以上。 ②「学校からの通知や便り、ホームページなどは本校理解に役立っている」と思う保護者の割合が75%以上。 活動計画 ①-1 交流授業を各教科とも年間12回以上実施する。 ①-2 連携3校での参観（公開）授業を5教科で各教科1回ずつ実施し、授業後評価を行う。 ②-1 ウォームアップガイダンスを5回以上実施する。 ②-2 阿波西だよりを年間2回発行し、近隣中学や本校保護者に配布する。 ②-3 ホームページを活用し、学校紹介・部活動紹介の広報を行う。 ②-4 阿波西人権新聞を年間3回、保護者に配付する。	評価指標の達成度 ①「あてはまる」と答えた生徒の割合は71.2%、「あてはまらない」17.9%、「わからない」10.9%であった。 ②「あてはまる」と答えた保護者の割合は66.4%、「あてはまらない」20.1%、「わからない」12.9%であった。 活動計画の実施状況 ①-1 交流授業はどの教科も12回以上実施した。 ①-2 5教科で年間1回ずつ研修授業を実施した。授業参観後は各教科ごとに評価を行った。 ②-1 新型コロナウイルス感染症防止対策を十分にを行い、各中学校で5回実施することができた。 ②-2 近隣5中学校の中学3年生とその保護者に配布した。 ②-3 行事後すぐに更新し、更新回数は65回であった。 ②-4 人権新聞を年間3回発行し、全学年の保護者に配付することができた。	総合評価 (評定) B (所見) ウォームアップガイダンスから始まって中高連携による交流授業や参観授業を通して、生徒たちは基礎学力の向上を目指すという意欲をある程度高めたが、さらなる対策が必要である。また、ホームページの更新も頻度を上げてきたが、それを見てもらうための保護者への発信が必要と思われる。新型コロナウイルス感染症対策には生徒・保護者とも理解を示している。	中高一貫教育活動においてより効果的な連携と活性化を進めてほしい。 今後も積極的な広報を検討していただきたい。	現在は時間割の関係で固定のクラスのみで実施の交流授業を特別時間割等の活用により他のクラスでも実施し、より多くの生徒に対応できるようにする。 本校の教育活動の取り組み内容について、連携中学校等への広報をさらに充実させる必要がある。徳島教育の日を活用し、連携中学校の教職員も授業に参加できるように実施方法を工夫する。
		評価指標 ①「朝の学習や資格取得に向けて熱心に取り組んだ」と思う生徒の割合が75%以上。 ②「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と思う生徒の割合が75%以上。 活動計画 ①-1 朝のHR活動前の10分間を「学びなおしタイム」とし、「マナトレ」を活用することで義務教育段階の学習内容の確実な定着に向けて、個々の学力に応じた指導を全教員で行う。 ①-2 「コグトレ」を活用し、認知機能の強化についての指導を全教員で行う。 ①-3 漢字検定や英語検定を積極的に受検させる中で、個別指導や補習を行う。 ②-1 研究授業、参観授業及び教科会を積極的に行う。 ②-2 ICTを取り入れた授業を実施する。	評価指標の達成度 ①「あてはまる」と答えた生徒の割合は1年生73%、2年生72%、3年生59%で、反省すべき点が多いと思われる。 ②「あてはまる」と答えた生徒の割合は1年生82%、2年生78%、3年生64.8%、全体74.4%であった。 活動計画の実施状況 ①-1 各学年で実施していき、教員が個別に指導していく中で一定の成果を得ることができた。 ①-2 1学年の放課後補習等で実施した。 ①-3 コロナ禍の中ではあったが、学習環境を整え、多くの受検生を排出することができた。 ②-1 国語、理科、保健体育、HR活動において研究授業と研究協議を実施した。5教科においてはそれぞれ少なくとも1回ずつ参観授業を実施した。 ②-2 全てのクラスにおいて、電子黒板や一人一台端末を活用した授業を行った。	総合評価 (評定) B 朝の学習や、教育支援員なども活用したティームティーチングによる授業が生徒の中にわかりやすい授業として理解されている。また、検定受検のための対策も行っており、少しずつではあるが取得級が上がっている。マナトレも効果があると感じられる。	生徒の習熟度には差があると思われるが、その生徒の状況に合わせて、個別的に丁寧な指導を行っている。	生徒は毎年多様化しており、今後もさらに生徒各々に応じた指導が必要である。特に1年生は複数での指導が必要である。TTや習熟度別の授業の形態で実施できるよう働きかけていきたい。
学習指導の工夫・改善	①生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学習する習慣の定着を図る。 ②研究授業・参観授業や授業評価を実施し、授業力の向上に努める。	評価指標 ①「朝の学習や資格取得に向けて熱心に取り組んだ」と思う生徒の割合が75%以上。 ②「教員はわかる授業を目指して授業を工夫している」と思う生徒の割合が75%以上。 活動計画 ①-1 朝のHR活動前の10分間を「学びなおしタイム」とし、「マナトレ」を活用することで義務教育段階の学習内容の確実な定着に向けて、個々の学力に応じた指導を全教員で行う。 ①-2 「コグトレ」を活用し、認知機能の強化についての指導を全教員で行う。 ①-3 漢字検定や英語検定を積極的に受検させる中で、個別指導や補習を行う。 ②-1 研究授業、参観授業及び教科会を積極的に行う。 ②-2 ICTを取り入れた授業を実施する。	評価指標の達成度 ①「あてはまる」と答えた生徒の割合は1年生73%、2年生72%、3年生59%で、反省すべき点が多いと思われる。 ②「あてはまる」と答えた生徒の割合は1年生82%、2年生78%、3年生64.8%、全体74.4%であった。 活動計画の実施状況 ①-1 各学年で実施していき、教員が個別に指導していく中で一定の成果を得ることができた。 ①-2 1学年の放課後補習等で実施した。 ①-3 コロナ禍の中ではあったが、学習環境を整え、多くの受検生を排出することができた。 ②-1 国語、理科、保健体育、HR活動において研究授業と研究協議を実施した。5教科においてはそれぞれ少なくとも1回ずつ参観授業を実施した。 ②-2 全てのクラスにおいて、電子黒板や一人一台端末を活用した授業を行った。	総合評価 (評定) B 朝の学習や、教育支援員なども活用したティームティーチングによる授業が生徒の中にわかりやすい授業として理解されている。また、検定受検のための対策も行っており、少しずつではあるが取得級が上がっている。マナトレも効果があると感じられる。	生徒の習熟度には差があると思われるが、その生徒の状況に合わせて、個別的に丁寧な指導を行っている。	生徒は毎年多様化しており、今後もさらに生徒各々に応じた指導が必要である。特に1年生は複数での指導が必要である。TTや習熟度別の授業の形態で実施できるよう働きかけていきたい。
進路指導の充実	①キャリア教育を推進し、主体的に	評価指標 ①「学校では、生徒の希望を尊重したき	評価指標の達成度 ①「あてはまる」と答えた生徒の割合は、全体では	総合評価 (評定)	コロナ禍であったが、進路指導は充実してい	次年度についても感染拡大防止に配慮しながら、外部機

	<p>進路選択ができる能力・態度を養う。</p> <p>②読書の奨励を図り、生涯にわたり学び続ける能力の育成を図る。</p>	<p>め細やかな進路指導ができてい」と思う生徒の割合が75%以上。</p> <p>②「学校では、読書する習慣を身に付けさせる活動が行われている。」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 家庭学習の習慣を確立させ、学習時間全体平均を2時間以上にする。</p> <p>①-2 アカデミックAコースは全員、他クラスは希望者で朝夕に補習を実施し、出席率を90%以上とする。3年生の就職希望者に朝夕の補習を実施し、出席率を90%以上とする。</p> <p>①-3 卒業生との対談を実施する。(「先輩にインタビュー」)</p> <p>①-4 個人面談を各学期に1回以上実施する。</p> <p>② 生徒一人あたり年間10冊以上の読書を目標とする。</p>	<p>71.2%となっており、1年生77.3%、2年生67.2%、3年生63%であった。</p> <p>② コロナ禍のため図書室利用を控える生徒が増えたことなどもあり、25%にとどまった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 1年生の平均が1時間59分、全体の平均が1時間47分であった。</p> <p>①-2 予定どおり実施することができた。出席率も90%を超えた。</p> <p>①-3 県内の事業所から15名の卒業生を招いて、予定通り実施することができた。</p> <p>①-4 各学期ごとに面接週間をもうけ全学年において実施した。</p> <p>②生徒数の減少もあったが、一人あたり年間2.5冊の貸し出しとなった。</p>	<p>B</p> <p>(所見)</p> <p>進路指導については担任と学年主任(兼進路指導課長)が密に連絡を取り、適切に指導を行った結果、それぞれが満足できるよう進んでいった。補習の出席率も高い。</p> <p>読書の習慣づけについては、臨時休業があり、その後長期休業が短縮されたため、貸し出し数も多くなかった。司書の方の努力もあり、後半は挽回してきたと考えられる。</p>	<p>と思われる。さらなるキャリア教育の推進をお願いしたい。</p>	<p>関や地域と連携をして、インターンシップなどの体験学習、職業理解の機会を設定していきたい。</p>
<p>人権教育の推進</p>	<p>①自尊感情を高める教育を推進するとともに、人権尊重の精神の涵養に努める。</p> <p>②人権意識の高揚を図り、人権問題の解決に主体的に取り組む態度を養う。</p>	<p>評価指標</p> <p>①「自分や他者を大切に思う心や態度が育っている」と思う生徒の割合が75%以上。</p> <p>②「様々な人権問題の解決に向けて真剣に考えている。」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 「人権に関する意識調査」の結果を基に、その後の指導へ生かしていく。</p> <p>①-2 年間1回人権コンサートを実施する。</p> <p>①-3 各学年で年間1回以上研究授業を実施する。</p> <p>②-1 「人権の日」を年間11回実施する。</p> <p>②-2 人権学習HR活動に、生徒が主体的に参加し、考える場となるよう、ワークショップによる学習を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①「あてはまる」と答えた生徒の割合は、78%となっており、目標を達成している。</p> <p>②「あてはまる」と答えた生徒の割合は71%となっており、目標を達成している。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 意識調査を行い、関心のある人権問題を「人権の日」やHR活動で取り上げた。</p> <p>①-2 コロナ禍のため、人権コンサートに替えて人権教育講演会を実施した。生徒の感想には「多くのことを知ることができた」「これからの行動に生かしたい」というものが多く見られた。</p> <p>①-3 各学年で計画通り実施できた。</p> <p>②-1 計画通り年間11回実施できた。</p> <p>②-2 人権学習HR活動では、模擬面接やロールプレイなどワークショップを取り入れた学習を実施し、生徒が主体的に取り組むことができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>校内体験学習は、昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止していたが、今年度はオンラインで講師と繋いで実施することができ、「自分も他人も大切にしたい」について学ぶことができた。人権コンサートは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため講演会に替えたが、障がい者の人権について学ぶ良い機会となった。</p>	<p>校内体験学習は、生徒にとってコミュニケーションスキルを向上させるため非常に有効な取り組みである。今後も継続してほしい。</p>	<p>コロナ禍であってもオンラインでの実施などできる方法を検討しながら入学して早い時期に校内体験学習を実施していきたい。</p>
<p>生徒指導の徹底</p>	<p>①基本的な生活習慣の確立を図るとともに、正しいルール・マナーを習得させる。</p> <p>②いじめを早期に発見する態勢を整えるなど、安全教育の徹底を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①「頭髪・服装等の身だしなみを整えている」、「挨拶をよくしている」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>②-1「学校は、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>②-2「交通ルールや交通マナーを守り、交通事故の未然防止に努めている」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①「あてはまる」と答えた生徒の割合は徒84.6%、保護者82.5%となっており、目標を達成している。</p> <p>②-1「あてはまる」と答えた生徒の割合は42.6%、「あてはまらない」25.8%、「わからない」31.6%であった。</p> <p>②-2交通事故の未然防止に努めていると評価している生徒は86.5%となっており、目標を達成している。</p> <p>活動計画の実施状況</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>頭髪服装指導については、特に目立つような生徒はおらず、落ち着いた雰囲気の中で学習が行われている。いじめは学校生活アンケートを通じて、個人面</p>	<p>学校外の生活について特に目立ったところはない。</p>	<p>服装頭髪や学校生活について大きな乱れはなくなっているが、コミュニケーション能力の未熟さによるトラブルは例年発生している。また、SNSを介したトラブルの発生もある。今後も生徒理解に努め、早期発見、早期対応をして、問題行動の未然防止に努めていきたい。</p> <p>夏休みの交通安全啓発活動</p>

		<p>①-1 学年集会などを通してルール・マナーを習得させ、問題行動の発生を未然防止する。</p> <p>①-2 学年主任会などで教員間の連携を密にし、些細なことも話し合い、情報の共有と組織的な対応を行う。</p> <p>②-1 年間2回学校生活アンケートと個人面談を実施する。</p> <p>②-2 交通事故の未然防止のため、多彩な啓発活動を行う。</p>	<p>①-1 学年集会や日常の観察等で機会を捉え指導を行い、問題行動等の発生を未然につなげた。</p> <p>①-2 学年主任会を年間6回開催し情報を共有した。また、課題には組織的に対応した。</p> <p>②-1 計画とおりにアンケートを実施し、その後個人面談を行うことで、問題の早期対応につなげた。</p> <p>②-2 年間計画を立て交通安全教室や立哨指導を実施した。コロナ禍により、で昨年できなかったスタントマンを招いて行う「自転車交通安全教室」を実施することができ、事故の恐ろしさを目の当たりにすることができた。</p>	<p>談を行うなど細かな対応をすることでトラブルの未然防止や適切に対応できている。</p> <p>交通安全については毎朝の立哨指導や生徒会の啓発活動など目に見える形の取り組みを行うことで、生徒も評価している。スタントマンによる自転車交通安全教室は、実際に見ることや衝撃音を知ることによって事故の恐ろしさを理解することができた。</p>		<p>についても、連携2中学校とのさらなる連携を図りながら進めていきたい。</p>
環境・防災教育の推進	<p>① 環境美化活動を推進し、環境問題に取り組む態度と実践力の育成を図る。</p> <p>② 災害時における実践力を養い、地域防災に貢献できる人財の育成を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 「清掃に積極的に取り組んだり、ゴミの分別や節電・節水に努めている」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>② 「防災避難訓練や防災教室に参加することで、防災に対する意識が高まった」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 日頃からゴミの分別を推進する。</p> <p>①-2 日頃から節電・節水に努める。</p> <p>①-3 地域の清掃活動や、植栽活動などに積極的に参加する。</p> <p>②-1 消防関係団体と連携した、避難訓練を実施し、生徒に避難方法や経路を十分に把握させると共に地域との連携を深める。</p> <p>②-2 防災教室を実施する。</p> <p>②-3 避難場所の調査と防災関係の資料を配付し、家族と話し合いが持てるよう指導する。</p> <p>②-4 防災リーダーの養成を行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 「あてはまる」と答えた生徒の割合は、80.1%となっており、目標を達成している。</p> <p>② 「あてはまる」と答えた生徒の割合は、72.3%となっており、目標を達成している。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 各教室への分別容器の設置を行い、積極的な啓発を実施した。</p> <p>①-2 校内に電気使用量変遷グラフを掲示し、節電節水につなげた。</p> <p>①-3 1・3年生が5月・9月にクリーン作戦を実施。全校生徒による学校周辺の溝清掃も地域と連携し実施。環境委員による植栽ボランティアを地域と連携で実施した。</p> <p>②-1 6月には避難方法と経路の確認を、12月には中央広域連合西消防署と連携し、避難訓練を実施した。</p> <p>②-2 3月に防災教室を実施した。</p> <p>②-3 防災教室で家族の方と避難場所を確認するように促した。</p> <p>②-4 防災士の資格を教員1名、生徒4名が修得した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>日頃から清掃活動の徹底に努め、校舎内の環境も整備されている。今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、窓の開閉の励行や、委員会による放送での呼びかけを通し、細やかな環境整備を心がけた。</p> <p>防災関係においては、年間計画に基づいて実施されており、コロナ禍においても3密を避けるなどして予定通り実施することができた。防災士の資格取得は昨年はコロナ禍と言うこともあったが、教員1名、生徒2名の増加となった。</p>	<p>体育館が阿波市の避難所になっていることもあり、引き続き防災教育に取り組んでほしい。</p>	<p>防災士を毎年養成しているが、その生徒たちがリーダーとなり、防災教育の推進を進められるような体制づくりに努める。</p>
心身ともに健康な生徒の育成	<p>① 食育の充実を図るなど、生徒自らが健康を保持増進できる力を養う。</p> <p>② 教育相談体制の充実を図り、生徒や保護者の悩みの解消に向けて取り組む。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 「食生活や運動などに気を付け、健康的な生活を心がけている」と思う生徒の割合が75%以上。</p> <p>② 「教員は悩みや相談などに親身になって対応してくれる」と思う生徒の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 食育の啓発を強化し、朝食摂取率を上げる(80%以上)。</p> <p>①-2 運動に関する啓発を強化し、運動(30分以上)実施率を上げる。(50%以上)</p> <p>② 学期に2回以上は相談週間(ハートフル週間)をもうけ、ハートフルルームを活用する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 「あてはまる」と答えた生徒の割合は、全体で70.5%となっており、目標達成できなかった。</p> <p>② 「あてはまる」と答えた生徒の割合は57%となっており、1年生63.6%、2年生62%、3年生48.1%であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 保健員会作成の「ほけんだより」を活用し啓発を行った。朝食の摂取率は、全体で75%であった。</p> <p>①-2 「ほけんだより」や保健室前の掲示物を積極的に活用した。運動実施率は61%となり、実施率を上げることができた。</p> <p>② 月1回、1回につき1週間の相談週間を実施できた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>校内・校外ウォーキングマップや運動消費カロリー表の作成など生活習慣に関する啓発は実施できたが、行動変容には繋がっていないと考えられる。</p> <p>教育相談に関しては、ハートフル週間の実施場所や時間など周知を強化し、相談しようと思うきっかけ作りをしていく。</p>	<p>健康教育の推進に引き続き取り組んでほしい。</p>	<p>「ほけんだより」や掲示物を積極的に活用し、朝食摂取率の向上に努めたい。</p> <p>来年は本県インターハイが開催されることもあり、運動部の活性化にも繋げていきたい。</p>

特別活動の充実	<p>①生徒会活動・部活動やボランティア活動を活性化させ、社会性の育成を図る。</p> <p>②学校行事に主体的に取り組む姿勢を養い、集団の一員としての所属感を高める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①「生徒会活動・部活動やボランティア活動に積極的に取り組んでいる」と思う生徒の割合が75%以上。</p> <p>②「学校行事に積極的に取り組んでいる」と思う生徒の割合が80%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①校内及び地域のボランティア活動を実施し、積極的に参加する。(参加率70%以上)</p> <p>②生徒会活動・委員会活動を活発にし、連携をとりながら学校祭を初めとする各行事を充実する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①「あてはまる」と答えた生徒の割合は全体で70%であり、1年生86.4%、2年生65.5%、3年生63%であった。</p> <p>②「あてはまる」と答えた生徒の割合は、全体で79.5%であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①地域の清掃ボランティアについては、コロナ禍の為、中止となったので、全校生徒で1回の実施であった。クリーン作戦は1年生と3年生で実施した。</p> <p>②県教育委員会の感染症拡大防止対策に従い、可能な範囲で工夫しながら各種行事に取り組んだ。生徒会総会や県総体激励会をリモートで実施した。阿波西祭は日程を変更し、縮小しての実施となったが、生徒会役員を中心に生徒が工夫しながら取り組むことができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>コロナ禍によりボランティア活動の中止や学校行事の延期・縮小により評価が低くなったと思われる。また、評価指標について「わからない」と回答した者を除くと①は80%、②は87.7%となっているので、生徒会活動やボランティア活動について理解を深めていく為の広報活動が重要であると思われる。</p>	<p>コロナ禍前は、地域のボランティアに積極的に参加をして地域貢献が活発に行われていた。コロナ対応をしながらできることをやっていけばよいと思う。</p>	<p>地域の行事については、その多くがコロナ禍により、活動中止または縮小され、今後どうかはわからない状況である。清掃ボランティア活動など地域と連携して、コロナ禍のボランティア活動の在り方を検討していきたい。</p>
働き方改革	<p>①勤務時間の管理と意識改革</p> <p>②外部人材の活用</p>	<p>評価指標</p> <p>①夏季休業中の学校閉庁を設定し、活用できている教職員の割合が80%以上。</p> <p>②外部人材の活用が図られているという教職員の割合が70%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①夏季休業中の学校閉庁日を設定する。</p> <p>②特別支援教育支援員等の外部人材を授業等で活用する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①夏季休業中に3日間(8/11～8/13)の学校閉庁日を実施した。出張を除く全ての教職員が活用した。</p> <p>②外部人材の活用が図られているという教職員は、80%以上であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①夏季休業中に3日間(8/11～8/13)の学校閉庁日を実施した。</p> <p>②外部人材として、社会人講師6名、特別支援教育支援員1名、部活動指導員2名に指導をしていただいた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>福祉コースにおいて、地域人材(社会人講師)を活用した授業を実施している。専門性の高い方々に授業をしていただくことで生徒の興味関心も高く、効果が上がっている。</p>	<p>外部人材の活用は、地域との連携を深めるうえでも大変有効である。今後も積極的に進めてほしい。</p>	<p>部活動における専門の指導者が不足しており、活動が非常に難しい部も存在している。地域の外部指導者や大学と連携し、部活動の指導を依頼することで部活動の活性化だけでなく、教職員の働き方改革へもつなげていきたい。</p>